



やなぎっ子

～ 元気な学校、楽しい学校とは ～

長いと思った令和5年度も今月で終わります。今年度は創立150周年ということで、地域の方や保護者の方の協力をいただきながら片柳小学校のお誕生日を子どもたちと教職員でお祝いできたことに感謝いたします。

運動会では、紅白に分かれた12個のお神輿を周年行事実行委員の方々の作成準備の御協力のもと、子どもたちがお神輿を担ぐことができました。きっと忘れられない運動会になったことと思います。

来月の子どもたちは1学年進級し、ひとつお兄さん、お姉さんになります。新しいピカピカの1年生も53名入学予定で、うれしい限りです。

しかし、卒業する6年生が86名です。来年度の全校児童は381の予定です。とうとう400人を下回ってしまいます。少子化の波は本校にも着実に近づいています。

来年度からの良い情報としましては、各クラス35名以下となり、全クラスが適正な人数の学級だということです。40名のクラスより、担任が児童一人ひとりのことを良く見て褒めてあげたり、指導したりすることができます。その結果、各クラスでの児童理解が進み、適切な学級経営につながると考えます。生き生きと楽しく教職員が授業をすることで、子どもたちも学習が楽しく身に付くことが予想できます。そんな姿を教職員が子どもたちに見せることができたなら、以前のように、なりたい職業が「ユーチューバー」ではなく、「学校の先生！」という魅力ある仕事と認めてもらえると思います。

働き方改革は10年以上前から言われていましたが、残念ながらこの10年でも教職員の精神疾患は増えています。文部科学省の調査資料では「2022年、精神疾患による休職数は5897人、過去最高」「2023年、精神疾患による休職数は6500人、過去最高」と休職数も増加しています。病气ギリギリの仕事ぶりは、子どもたちには見せたくありません。

しかし、多くの教職員は、この仕事に夢と希望をもって教職員になり、真面目です。誰かがブレーキをかけてあげることが必要な時期は、10年前だったかもしれません。

教職員が元気であれば、子どもたちも元気になり、学校が元気になると思います。

来年度も保護者や地域の方々の協力をいただきながら、子どもたちが楽しいと思える片柳小学校を目指してまいります。